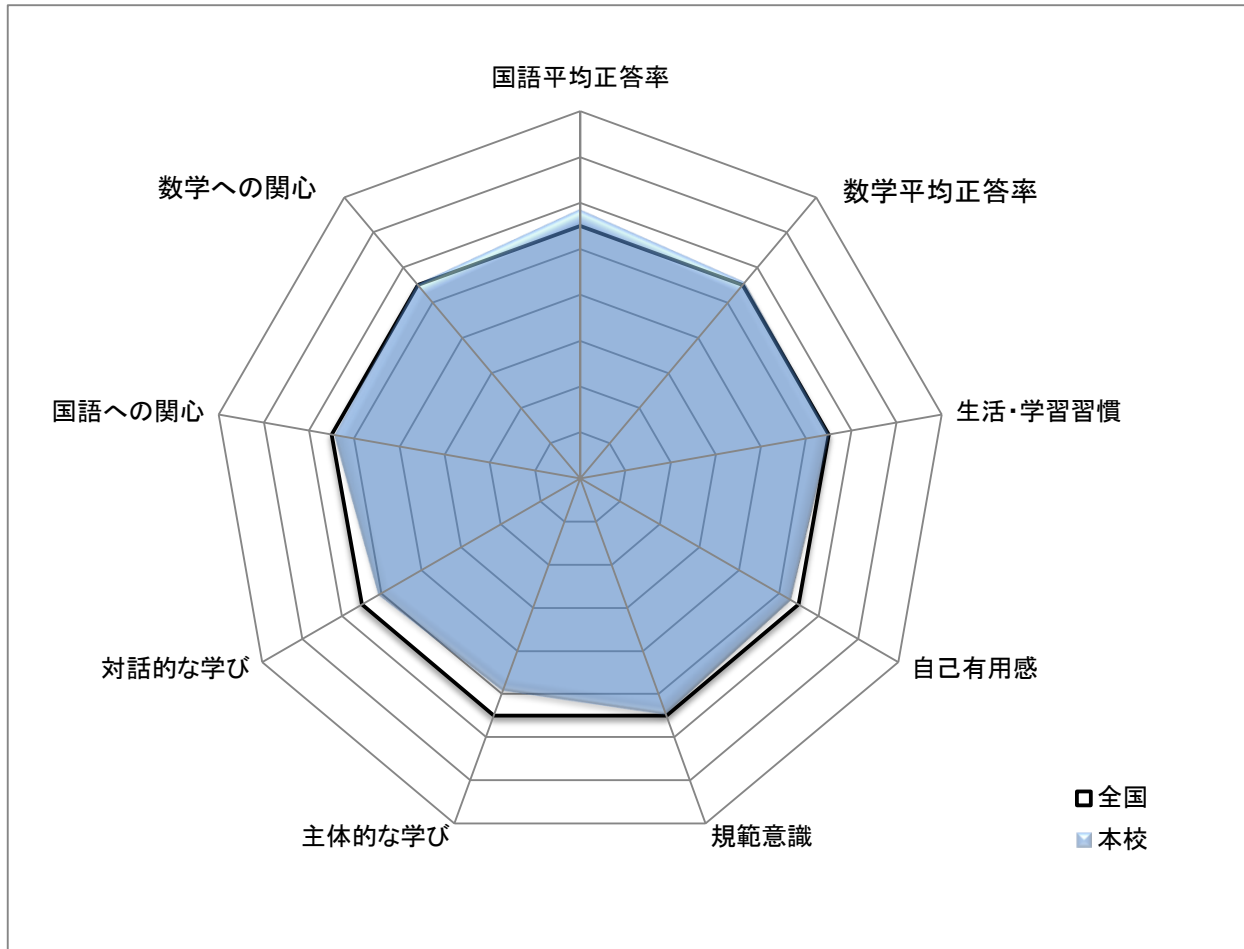


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】全国平均 +4.4ポイント
 評価の観点のうち、特に高かったのは読む能力で全国平均+8.7ポイント、次に国語への関心・意欲・態度が全国平均+6.7ポイントであった。話す・聞く能力も+3.8ポイントであった。

【数学】全国平均 +0.8ポイント
 評価の観点では、数学的な見方や考え方は、全国平均+1.6ポイントで、次に数量や図形などについての知識・理解が全国平均+0.8ポイントであった。しかし、数学的な技能については全国平均-3.0ポイントであった。

《授業改善のポイント》

【国語】
 基礎基本を徹底するとともに、思考力・判断力の向上につなげるような授業実践を心がける。また、ICTを活用して生徒が興味関心をもって授業に取り組めるようにする。さらに他者の考えから自分の考えを広げられるような言語活動の充実を図っていく。

【数学】
 基礎的・基本的となる知識や技能を身につけさせるとともに、思考力・判断力・表現力を育てるために、教え合いやグループ活動、ICTを活用する。習熟度に合わせた進度、教材を考え、単元内容の理解が深まるように指導する。

《チャートの特徴》

レーダーチャートでは、9項目中6項目が全国平均と同程度であった。「自己有用感」「主体的な学び」「対話的な学び」の3項目は全国平均より低い値となった。

「自己有用感」では「自分には、よいところがあると思う。」「将来の夢や目標を持っている。」が低い。「主体的な学び」「対話的な学び」については、「互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」が低い。

授業での学びを生かし、総合や学活での指導効果をあげることが必要と考える。

《家庭・地域への働きかけ》

学校教育に対して理解を示し協力的な家庭が多い。三者面談や保護者会、学年だより、学校HPなどを通して本校生徒の課題について周知し、改善を働きかけ、学力の向上、学校生活の安定を図っていく。